

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ONEPLAY.GIFTED東神奈川(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	20
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	3
○訪問先施設評価実施期間	2025年10月1日		2025年10月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	25	25
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先・保護者・事業所をつなぐ三者連携と、個性性の高い支援計画 (項目8～14・17～19・25・28～31、保護者⑦～⑩・㉔)	初回ヒアリングや毎回のフィードバックを通じて訪問先の意向を計画へ反映し、教室での療育計画とも連動させている。訪問記録を個人別に整理し、家庭訪問・面談・HUG等で保護者にも共有。保護者評価では⑦・⑨～⑩・㉔が20名中20名「はい」。訪問先評価でも、園・学校と教室での様子を共有しながら保育を進められる点が肯定的に評価されている。	訪問先ごとの支援目標・助言・変化を簡潔に可視化し、保護者・訪問先・事業所の三者で定期的に確認する。支援計画と訪問記録のつながりをさらに明確にし、支援成果や次の課題を共有しやすい仕組みを整える。
2	訪問先の理念や負担に配慮しながら行う、柔軟で専門的な訪問支援 (項目17・37～41、保護者⑥・㉔・㉔、訪問先①～③・⑤)	学校・園の意向を確認し、直接支援と間接支援のバランス、訪問頻度、フィードバック方法を訪問先に合わせて調整している。ケース会議や支援計画作成、加配申請の相談にも対応。保護者⑥は19/20、訪問先①・③は21/25、⑤は19/25が「はい」で、具体的な助言や相談対応、熱心な観察への評価が確認できる。	訪問先の業務を妨げない短時間・非同期のフィードバック方法も標準化し、必要時にはケース会議等へつなげる。助言の具体例や成功事例を職員間で蓄積し、担当者によらず質の高い支援・助言が行える体制を強化する。
3	保護者との丁寧な情報共有・相談支援と高い満足度 (項目25～31・33・39、保護者⑬～⑯・㉔・㉔・㉔)	家庭訪問や面談の回数を増やし、HUGや訪問記録も活用して、訪問時の様子・成長・課題を丁寧に共有している。相談や申入れにも迅速に対応。保護者⑯～㉔・㉔はいずれも20/20が「はい」、㉔「事業所の支援に満足」は19/20が「はい」であり、共感的な対応と情報共有が強みとなっている。	支援前後の変化や支援のねらいを写真・具体例・短い振り返り等で分かりやすく伝え、保護者が訪問支援の成果を実感しやすくする。家庭で活用できる助言や情報提供もニーズに応じて充実させる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援を安定して提供するための人員配置・記録時間・事前共有の確保 (項目2・15・16、保護者①・⑤、訪問先①)	項目2は「はい」2・「いいえ」1、項目15「支援開始前の打合せ」は「はい」1・「いいえ」2。午後の訪問が難しいことや、訪問件数を増やすと記録・議事録が追いつかないとの職員意見がある。訪問先からも4月～夏休み明けまで体制を組むことが難しかったとの意見があり、提供体制と情報共有時間の確保が課題である。	訪問件数・移動・記録時間を含めた業務量を可視化し、訪問枠と記録時間をあらかじめ勤務内に確保する。支援前の確認事項を定型化し、短時間でも共有できる運用にする。午後訪問や利用増への対応は、人員配置・送迎体制を含め段階的に検討する。
2	保育所等訪問支援に関する専門研修と関係機関ネットワークの充実 (項目7・21・23)	項目7「研修機会」は「はい」1・「いいえ」2で、外部研修への参加機会が少なく、保育所等訪問支援に特化した研修自体も少ないとの意見がある。項目21も「はい」2・「いいえ」1で、相談支援・療育センター等との連携は進む一方、他事業所との連携や三者会議は十分ではない。	法人内で訪問支援の事例検討・ミニ研修を定例化し、SV・PT・社内アドバイザーの助言を体系的に共有する。オンライン研修やガイドラインの輪読も活用する。相談支援事業所・療育センター・他事業所とのケース会議や情報交換の機会を増やす。
3	安全管理の標準化・周知と、支援成果の見える化 (項目42～45、訪問先④、保護者㉔・㉔)	事故防止、緊急時対応、安全計画、ヒヤリハット、虐待防止に関する項目42～45はいずれも「はい」2・「いいえ」1で、運用の認識にばらつきがある。一方、訪問先④「課題や困りごとの解消・軽減」は「はい」16・「どちらともいえない」8・「いいえ」1で、支援効果を十分判断できない回答も比較的多い。	訪問時の事故・災害・緊急時の対応手順を訪問先との役割分担まで含めて確認し、年間の研修・訓練・ヒヤリハット共有を計画化する。併せて、支援目標ごとに『できたこと・変化・継続課題』を定期的に振り返り、訪問先と保護者に成果を分かりやすく共有する。